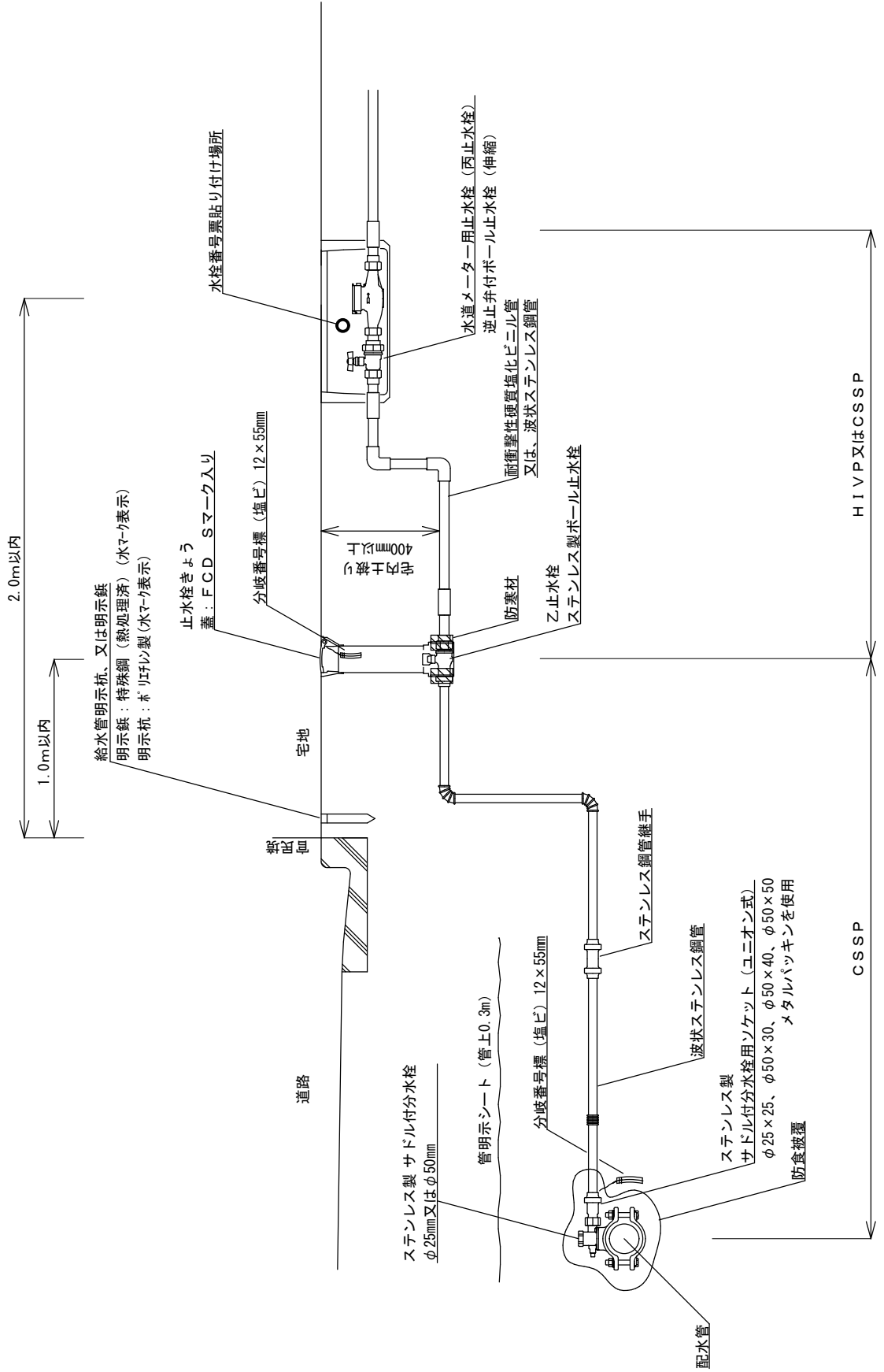


標準構造図

昭島市型給水管標準構造図 S=FREE

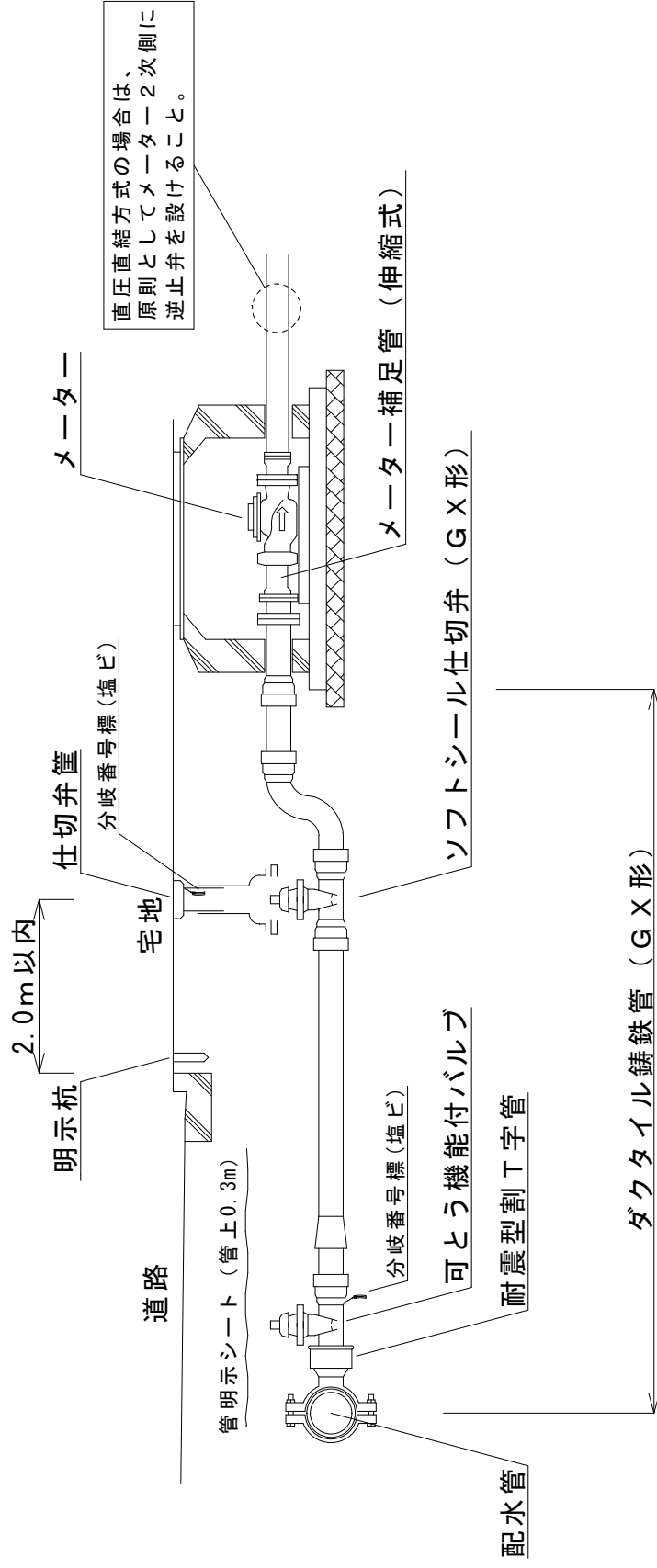


注：メーター位置が官民境から2.0mを超える場合は、乙止水栓～メーターまで波状ステンレス鋼管（CS SSP）とする。

注：配水管からの乙止水栓までの最低口径は25mmです。

昭島市型給水管標準構造図 S=FREE

(大口径 75 mm 以上の場合)



逆止弁の設置：メーター1次側又は2次側の管理しやすい場所に逆止弁を設置する。

1、直圧直結方式とする場合、原則としてメーターの2次側に逆止弁を設けること。

2、増圧直結方式は、増圧給水設備の逆流防止用機器と重複するため、逆止弁の設置は任意とする。

メーター・止水栓及び配管標準図

市がメーター位置を指示する根拠

条例第23条3項（抜粋） 水道メーターの設置位置は、市長が定める。

①標準

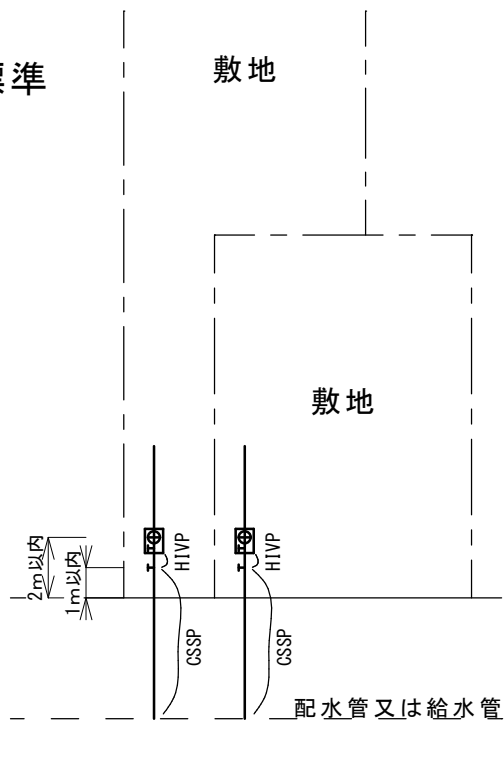


図 1

②敷地後退がある場合

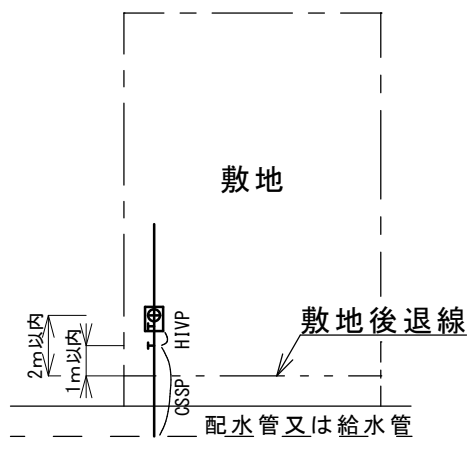


図 2

③道路を縦断する場合

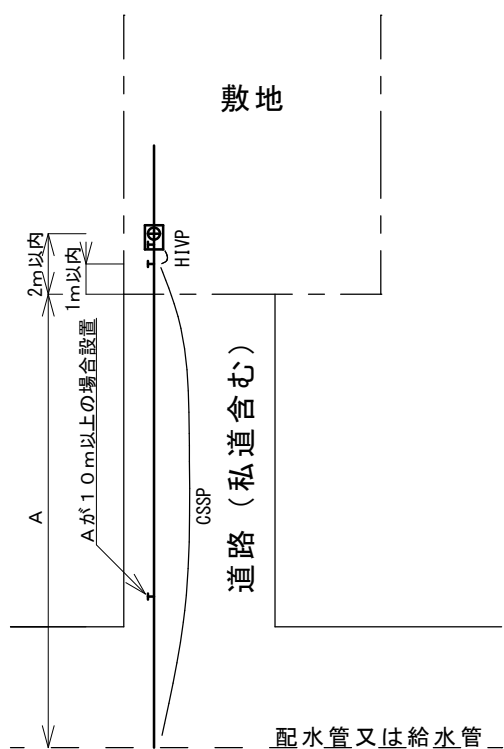


図 3

④歩車道を横断する場合

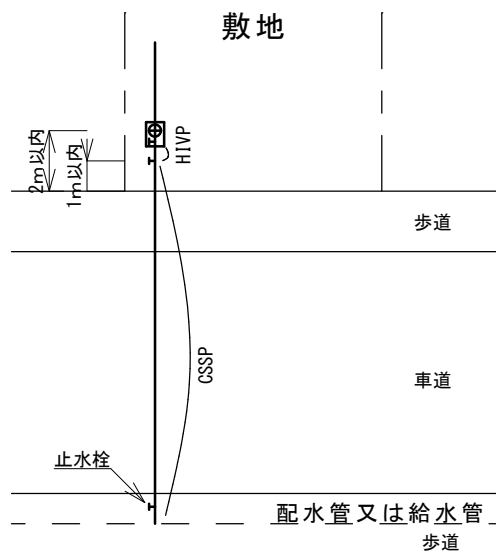
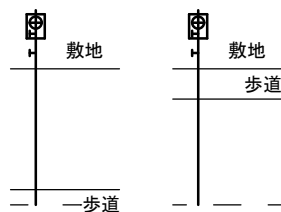


図 4



左の例の場合は横断前の止水栓は不要とする。

メーター・止水栓及び配管標準図

⑤同一使用者が同一敷地内に建物を増やす場合、メーターは出庫しません。

施工規程第18条【抜粋】

- 1項 給水装置に水道メーターを設置する基準は、1建築物に1個とする。
- 3項 同一使用者が同一敷地内に設置する2以上の建物で水道を使用するときは、当該2以上の建物を1建築物とみなす。

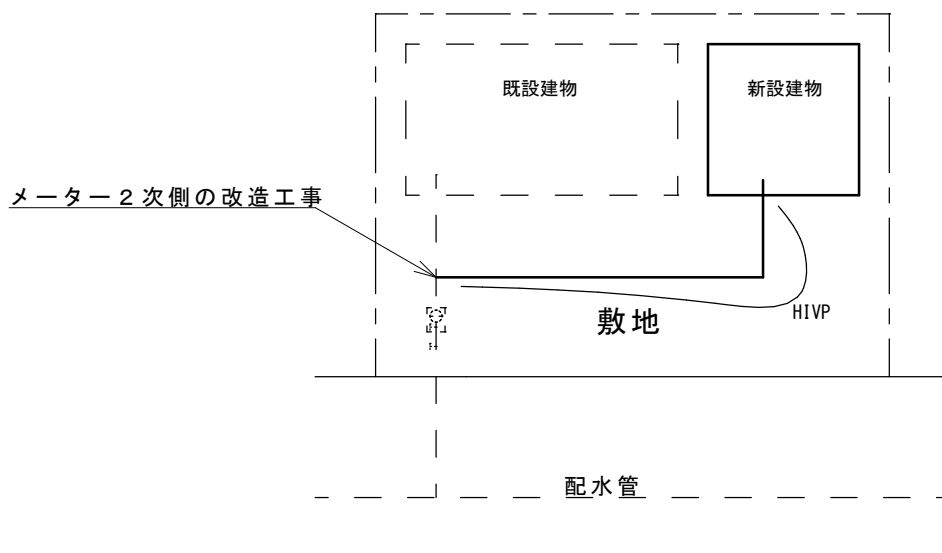


図5

⑥同一敷地内に建物を増やす場合（使用者が別の場合）

増設されるメーターは、既設乙止水栓～既設メーター間で分岐する。
メーターの位置は官民境、被分岐管から2m以内、図6のとおり。
補足：土地の分筆の有無は問わない。

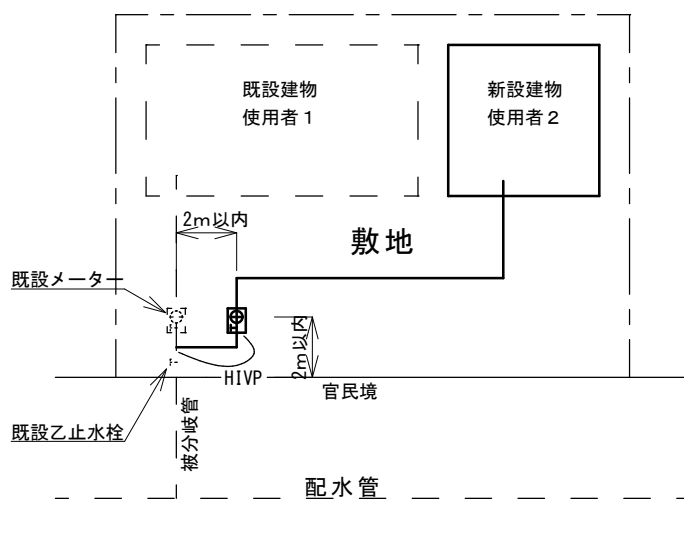


図6

メーター・止水栓及び配管標準図

⑦同一敷地内に建物を増やす場合（使用者が別の場合）

申請者の都合でメーター位置を敷地の奥に設置する場合（図7・図8）

被分岐管からメーターまでの配管は波状ステンレス鋼管とする。

被分岐管から2m以内に乙止水栓を設置する

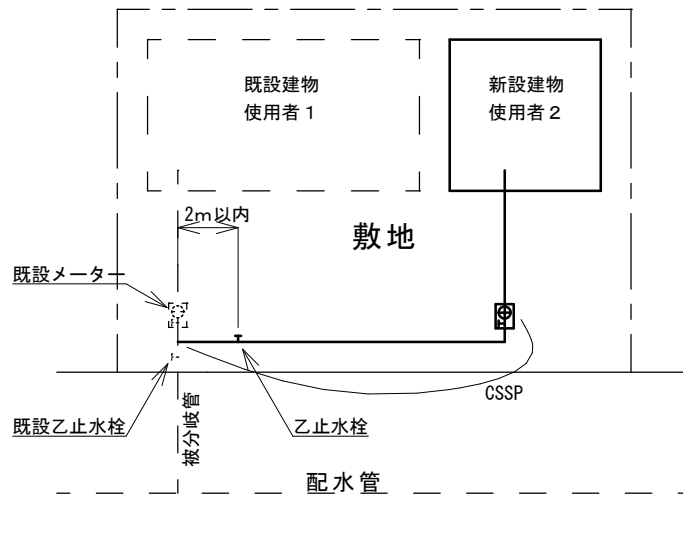


図 7

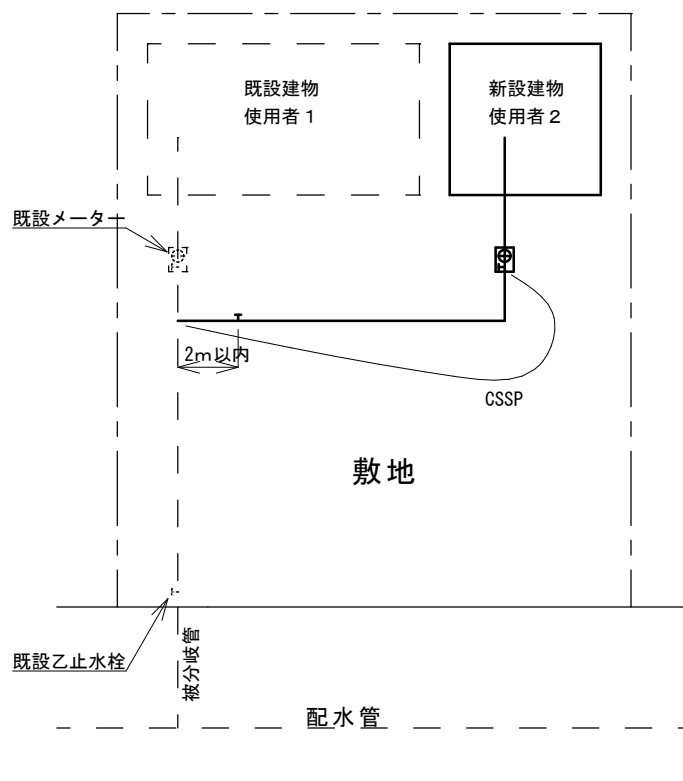


図 8

メーター・止水栓及び配管標準図

⑧ 既設給水管から他人の敷地を通り給水する場合

既設給水管からメーターまでの配管は波状ステンレス鋼管とする。

既設給水管から2 m以内に乙止水栓を設置する

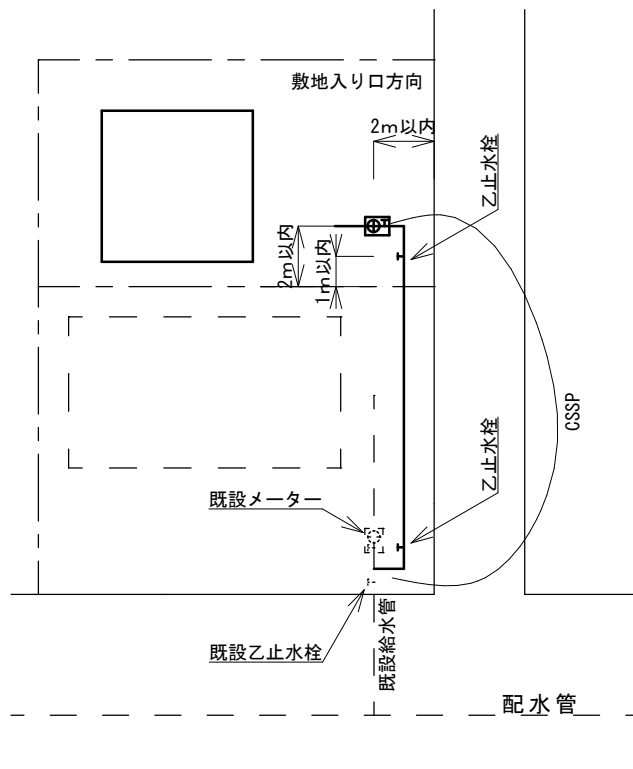


図 9

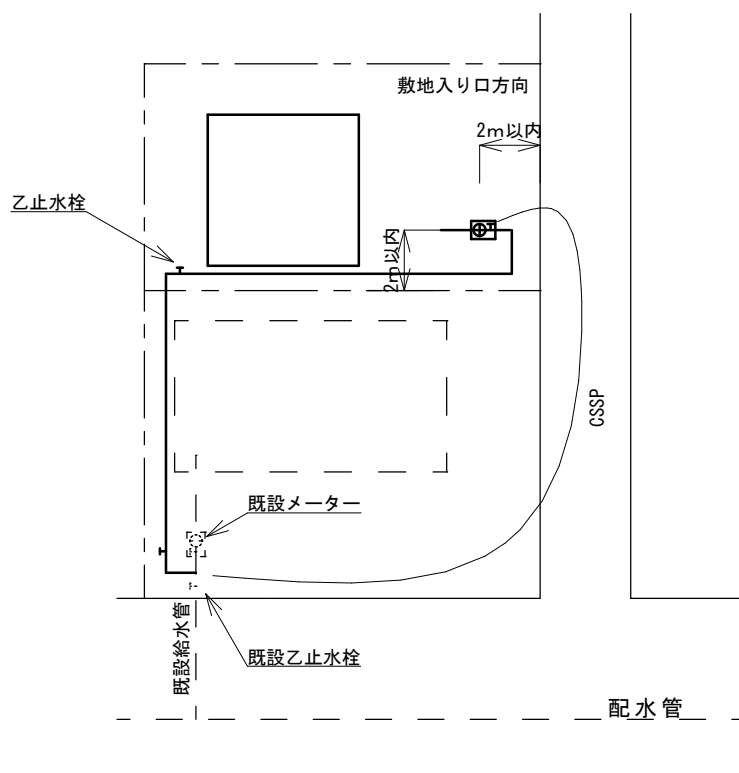


図 10

メーター・止水栓及び配管標準図

⑨ 集合住宅等

乙止水栓 2 次側はHIVP又はCSSP

乙止水栓 2 次側の漏水修理は所有者等の費用負担です。

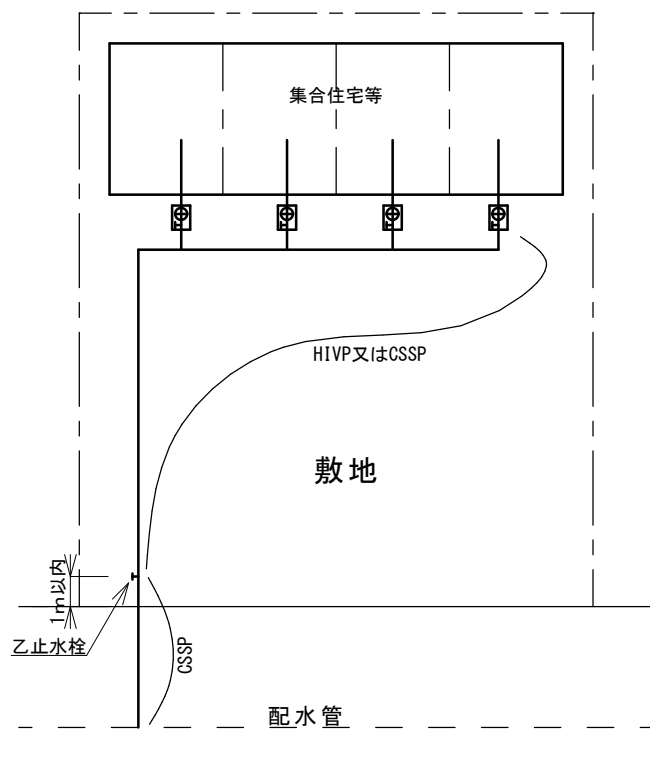
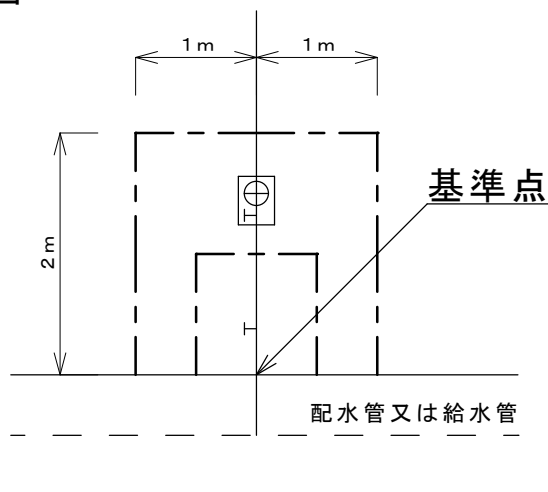


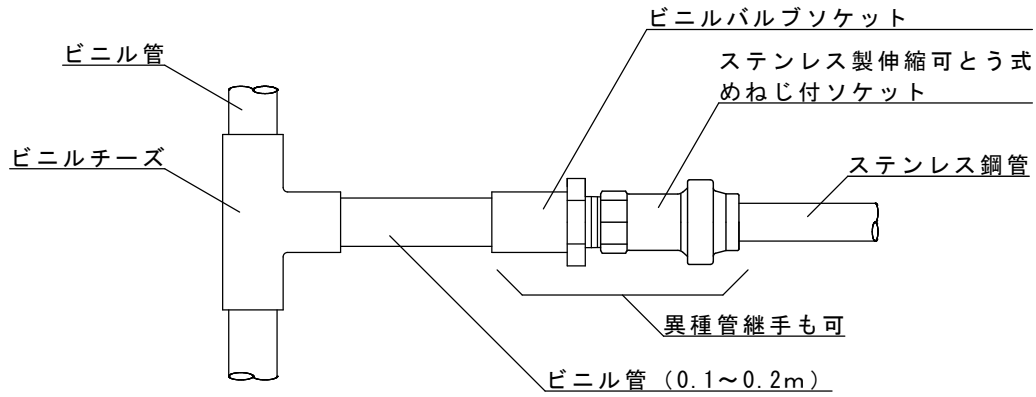
図11

メーター設置位置の範囲

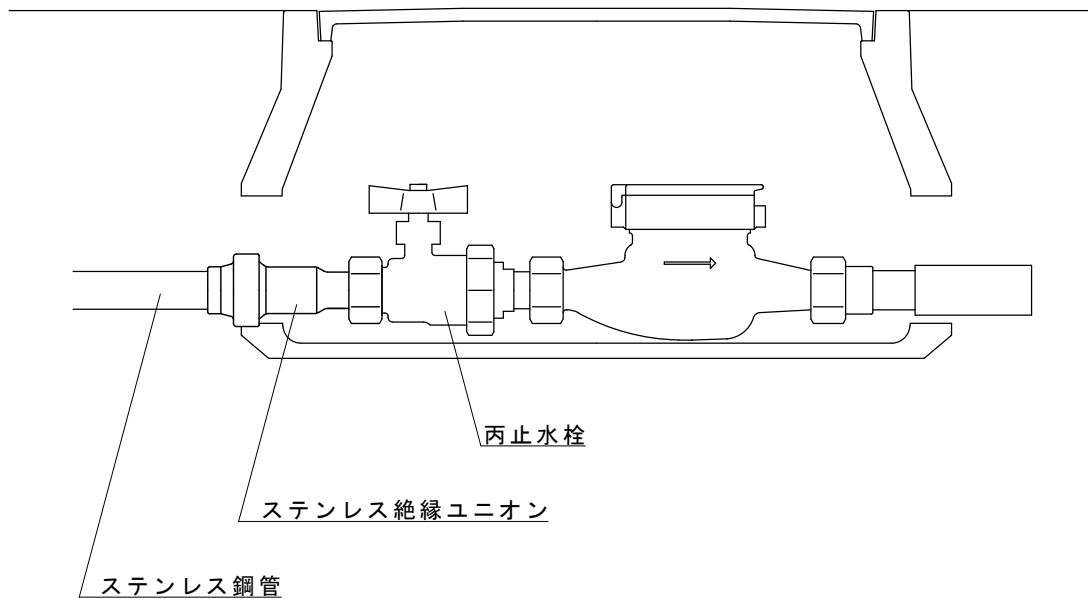


配管例

分岐側配管例



メーター側配管例



13mmメーターを使用する場合

ステンレス鋼管、絶縁ユニットの最少口径は20mmのため、

13mmメーターを使用する場合は、丙止水栓を20×13mmを使用する、

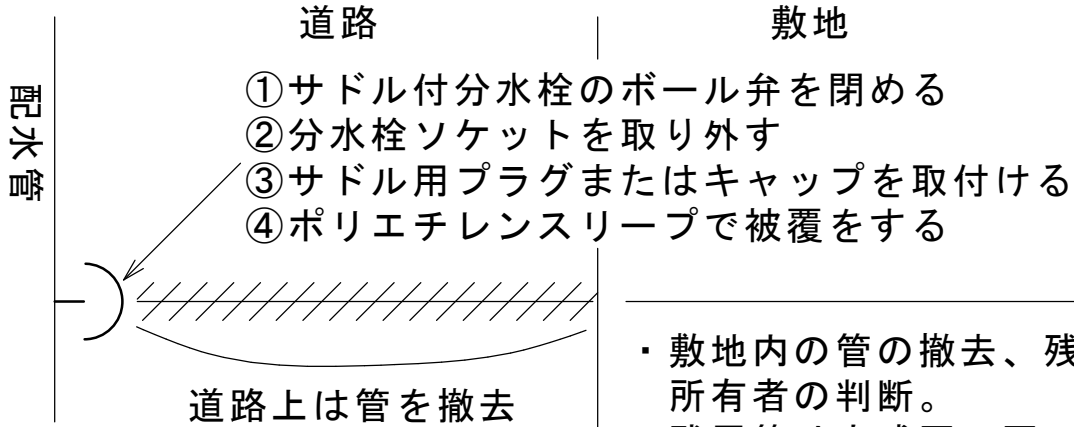
又は20mmの丙止水栓に20×13のブッシングを使用する。

給水管の撤去（施工要領P4-40の補足）

撤去を指示する根拠：給水条例第43条（給水装置の撤去義務及び切離し）

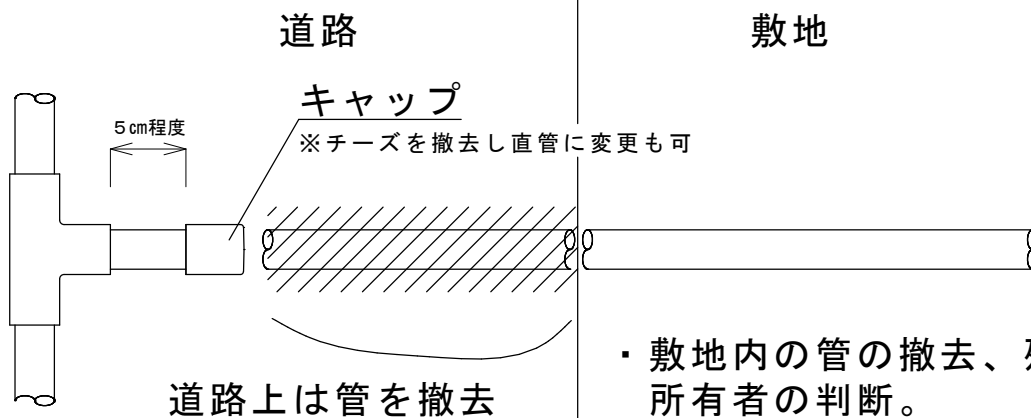
給水装置の所有者その他給水装置について処分権限を有する者（以下「所有者等」という。）は、当該給水装置を使用する見込みがなくなったときは、これを撤去しなければならない。

サドル付分水栓（ステンレス製含む）



- ・ 敷地内の管の撤去、残置は所有者の判断。
- ・ 残置管は完成図に図示すること。

ビニル管



- ・ 敷地内の管の撤去、残置は所有者の判断。
- ・ 残置管は完成図に図示すること。

連合管（ビニル管等）

